

核データ評価コード WG
GNASH サブ・グループ会合議事録

日 時 昭和 56 年 2 月 9 日 (月) 10 : 00 - 17 : 30

場 所 原研本部第 2 会議室

出席者 八谷 (三井造船), 松延・浅野 (住友原工), 山越 (船舶技研),
浅見 (原研)

配布資料

1. GNASH プログラムリスト
2. GNASH Input Format

議 事

1. GNASH コードの現状

原研の大型計算機 FACOM-M200 用に整備しつつある GNASH コードの現状、経緯等について浅見より説明があった。

2. レポート LA-6947 の検討

レポートに沿って、GNASH コードに用いられている formalism の概要及び計算の大筋をフォローし、疑問点等について討議を行った。

3. GNASH コードの概要の説明

浅見より LA-6947 及び資料(1)を用いて、GNASH コードでの計算の流れの概要及びコード中のサブ・ルーチン個々の機能の概要について説明があった。とくに、データ・ファイル GROUND2 が欠けていること、transmission coefficients の入力をどうするかが指摘され、議論を行った。

4. GNASH Input Format

浅見より資料(2)にもとづいて GNASH 2 コードの入力形式の説明があり、それをもとに GNASH コードの今後の整備上の問題点について議論を行った。その結果、

- mass, spin, parity のデータ・ファイルには, GROUND 2 に代るものとして, 原研五十嵐氏が作ったものを使わせてもらうことにし, GROGI 4 で用意した同じ目的のものを流用することにした。
- transmission coefficients の計算ルーチンをコードの中に組み込むことにし, neutron, proton, alpha についてはGROGI4 のルーチンから採ること, deuteron, triton については ELIESE 3 を参考にして検討することにした。
- Yrast level の採用は, 第1次の整備が終わってから検討する。
- テスト計算に用いるパラメータは各人で用意するが, その過程でGROGI4 を用いて試計算を行うとよい。

上の当面の作業は, 原研核データセンターで検討して進め, 問題点や支障等が生じたときはサブ・グループで改めて検討することにした。

COMNUC コードの検討のため, レポート AI-AEC-12931 を各サブグループ・メンバーに配布することにした。